『治天下復□□□齒大王世，奉□典(？)□人名无□旦，八月中，用鑄釜并四尺迓刀，八十練六十捃(？)三寸上好□刀，服此刀者，長壽子孫注(？)，得其(？)恩也，不失其所統作刀者名太加(？)，書者張安也』

問題は，初めの“治天下復□□□齒大王世”であるが，之れは“治天下復宮瑞齒大王世”と讀み，反正天皇（皇紀1066—1071）の御代に當ると云ふ（福山敏男氏說）．一字文字が不足して居り，多遲比が復となつて居るが，果して此の說の通りとすれば，始めて曆日を用ひたと政事要略に載つて居る推古天皇12年に先立つこと約200年前のことであつて，八月中に此の刀を造つたことになるが，八月中と云ふのは八月望の頃の意味であつて，八月は鏡や刀を造るによい時期なのである．“治天下”や“八十練”の語は日本式の言葉であつて，殊に，支那古鏡の銘文には“百練”と云ふ文字はよく見られるが，“八十練”と云ふのは見出せないものであると云ふ．そして，此の刀を造つたのは，伊太加と云ふ者であり，此の銘を書いたのは張安と云ふもので，共に當時の歸化人であらう．

法隆寺に在る藥師佛造像記に『池邊大宮治天下天皇，大御身勞賜時，歲次丙午年』とあるが，丙午年は用明天皇元年（皇紀1246）に當る．又，同じ法隆寺の釋迦佛の後光銘に『法興元卅一年，歲次辛巳十二月鬼前太后崩明年正月廿二日』とあるが，辛巳の年は推古天皇の29年（皇紀1281）に當る．伊豫風土記に載つて居る大分速見の湯岡碑に『法興六年歲在兩辰』と見えて居るが，此の方は法隆寺のものよりは25年も以前の，推古天皇4年(皇紀1256)に當つて居る．金石文に現はれた干支の古い處は大體上に述べた如きもので，此の以後は可成り數多く各所に殘存して居る．（皇紀2600年九月18日夜）

天界234號“東洋流の星座と星名の索引”補修

會員野尻抱影氏より親切なる御注意あり，尙ほ其の他の點について再考すべき點あり，下の如く補修する．先づ，**正誤**として，“コロク”（胡籙）は“ヤナグヒ”と訂正する．之は和名である．又，“ラテイ？”（羅堰）は“ラエン”と訂正．尙ほ，“シ 矢”を加ふ．

又，**校正**の誤りとして，“テンヤク？”と“フシツ？”との？を取り去る．**讀み方**について，“參”はシン，“天乙”はテンイツ（“天一”と同じ星なり）と讀む人多きも，姑く俗流を採る．又，“九河”はキュ１カとすべきか？．又，“天皇大帝”はテンワウタイテイ，“右馬寮”はウマリョ１とすべしとの說あり．尙ほ昔から漢學者には，“虎賁”をコホン，“造父”をゾ１ホ，“傅說”をフエツと讀む癖あり．（編輯局）